

才七十師團獨立歩兵才百五大隊部隊略正

陸軍大尉 大田系藏

年月日	概	要
昭二五、二、二	<p>軍令陸甲才五十七号により獨立混成才二十旅團獨立歩兵才百五大隊臨時編成 下令</p>	
一二三〇	<p>上海王浜飛行場に於て結成式舉行編成完結</p>	
一七、二、二	<p>軍令陸甲才八号に依り才七十師團臨時編成下令</p>	
四、二〇	<p>才七十師團獨立歩兵才百五大隊編成完結し前任務続行す</p>	
	<p>獨立混成才二十旅團獨立歩兵才百五大隊 歩兵才四十二連隊を基幹とし一師内地歩兵才四十二連隊補充隊より充用編成す</p>	
	<p>才七十師團獨立歩兵才百五大隊</p>	
	<p>獨立歩兵才百五大隊（獨立混成才二十旅團）主力を以て編成す</p>	
	<p>初代大隊長 陸軍中佐 森野逸雄</p>	
	<p>才二代 司 近上武彦</p>	
	<p>才三代 陸軍大佐 山口盛三</p>	
	<p>才四代 陸軍大尉 大田系藏</p>	

2907

年月日	
要	<p> 主要参加作戰及戦死者 錦江作戰（越前才二十旅団歩百五大隊として） 新嶺作戰 六五名 衛州作戰 五四名 広徳隊 二三名 「乙」号作戰 二名 才七十師団歩百五大隊として 友し </p>

~52~

2908

歩兵才六十二旅団路正

代理 陸軍大佐 吉丸 儀六

年月日	概 要
昭七、四、二〇	正代旅団長
一八、八、三〇	初代 陸軍少将 山崎三子次郎
一九、六、一三	二代 横山武彦
二〇、三、九	三代 藤田久男
二一、一、一三	四代 堀 貞策
二七、四、二〇	代理 陸軍大佐 吉丸儀六
五、二三	<p>旅団司令部（中華民国浙江省鄞寧汝）</p> <p>独立歩兵才百二十一大隊（広島歩兵才十一連隊補充隊）</p> <p>同 才百二十二大隊（浜田歩兵才二十一連隊補充隊）</p> <p>同 才百二十三大隊（山口歩兵才四十二連隊補充隊）</p> <p>同 才百二十四大隊（福岡歩兵才百十三連隊補充隊）</p> <p>口於々々編成完結</p> <p>隷下部隊宇岳港駐在独立歩兵才百二十四大隊は</p>

年月日	概	要
昭一七、五三四	門司港駐	
再、二八	独立歩兵才百二十二才百二十三才百二十四大隊は呉淞上陸	
	師団直轄	
六、一	独立歩兵才百二十一大隊寧波到着	
七、七	独立歩兵才百二十二大隊浙江省婺州府義烏縣義烏に於て復歸	
七、一七	独立歩兵才百二十二大隊浙江省新昌縣新昌駐屯	
七、二一	独立歩兵才百二十一大隊浙江省奉化縣奉化に駐屯	
九、一二	独立歩兵才百二十四大隊浙江省紹興縣紹興に駐屯	
自 四、二〇	独立歩兵才百二十三大隊浙江省鄞縣寧波駐屯	
至 九、一二	浙東地区警備並に浙贛作戦参加	
一八、五、八	独立歩兵才百二十二大隊浙江省杭州駐屯	
	師団直轄	
自 九、二六	独立歩兵才百二十四大隊広徳作戦参加	
至 一〇、三〇		
自 一一、五		
至 一九二、二五	独立歩兵才百二十二大隊將徳作戦参加	

~54~

2910

昭二七、九、三 至二九、三、二	三、三 三、六	浙東地区警備軍に清郷工作
自六、二 至七、三 自八、二一 至九、二四 一〇、二		務駐のため寧波出張
		浙江省金華県金華到着
		才二十二期団より金華路武義義烏附近の警備任務を継承
		独立歩兵才百二十一大隊 石門駐屯
		独立歩兵才百二十二大隊 蘭谿駐屯
		独立歩兵才百二十三大隊 武義駐屯
		独立歩兵才百二十四大隊 義烏駐屯
		衢州休戦(湘桂休戦)参加
		浙閩沿岸休戦(温州休戦)参加
		警備変更
		独立歩兵才百二十一大隊諸警駐屯
		独立歩兵才百二十二大隊金華駐屯
		独立歩兵才百二十三大隊武義駐屯
		独立歩兵才百二十四大隊義長駐屯

~55~

2911

年月日	概況
昭二〇、三、二〇	移駐のため金華出発
三、二一	浙江省嘉兴景嘉興到省爾後嘉兴附近警備
	独立歩兵第百二十一大隊江蘇省興泉平望駐屯
	同 才百二十二大隊嘉兴駐屯
	同 才百二十三大隊嘉兴駐屯
	同 才百二十四大隊浙江省平湖景下浦駐屯
六、一六	同 才百二十一大隊浙江省嘉兴景嘉興に移駐
八、一九	移駐のため嘉兴出発
八、二九	安徽省桐城到着
	独立歩兵第百二十一大隊同省靈璧景固鎮駐屯
	同 才百二十二大隊安徽省濉州曹村駐屯
	同 才百二十三大隊安徽省蚌埠駐屯（師団直轄）
	同 才百二十四大隊同省宿縣駐屯
	津浦線警備
九、二三	安徽省靈璧景固鎮に移駐
二〇、二二	上海英船のため固鎮出発
二、一五	上海到着

2562

自 三、三二
至 三、三二
自 三、三一
至 三、三一

内地帰還のため上海港出航

内地博多上陸復員

（陸軍大佐吉丸儀六以下 一九八名 博多に於て）
復員者総員 一九八名（現務整理を含む）

入 院 二名

生死不明者（本土兵輸送員）一名

死致者（虜虜以来） 八名

~57~

2913

嶺北歩兵才五二十一大隊（通称号 才七一五二部隊）略正

陸軍少佐 大場信平

年月日	概略
<p>昭、二七、四、八 四、一六 四、二〇</p>	<p>部隊長官氏名 才一代 陸軍大佐 大野静雄 才二代 陸軍少佐 大場信平 司令陸甲才八号に依り 編成下令 編成完結す 編成地 弘前県弘前市歩兵才十一連隊補充隊 部隊編成 本部 一 一般中隊 五 機甲中隊 一 歩兵砲中隊 一 編成完結</p>
<p>一七、四、二〇</p>	

~58~

2914

昭七、五三三	本誌（歩兵才十一軍隊補充隊）出張
五、三三	宇岳港出張
五、二八	揚子江河口通過
五、三〇	浙江省鎮海上陸
六、一	主力を以て野戦に一部を以て江口鎮並に甯口橋附近に進駐し該地附近の警備
百七、一一	嶽新休戦参加
至七、二〇	
七、三一	奉化県奉化に進駐し一部は毛滄石浦に配置し該地附近の警備
一九、三、四	現任務を才十一野戦補充隊に移譲し金華県石門附近移駐のため奉化出張
三、一五	石門に到着
	前任部隊より任務を継承す
	石門、長山頭、仰天海嶽、張李村に分駐
	警備担任第一師に旅団指揮と任り之金華に位置す
	龍州休戦参加
自六、二	
至七、三	
自八、二一	浙閩沿岸休戦（龍州休戦）参加
至九、二三	
九、三〇	石門、金華地区の警備を撤去し歩兵才百二十二大隊に移譲し湖豊に移駐のため

~57~

年月日	概 要
昭二九、一〇、二	<p>各駐屯地出張 諸警到着</p> <p>才十一野戦補充隊より任務を継承 主力は諸警に、各一部を蕭山、嵒浦鎮、涇廻、嶺頭鎮、安柵に夫々分遣し鐵道沿線の警備に従事</p>
二〇、三、二〇	<p>浙江歩兵才六百七大隊及浙閩依戦に引継ぎ梨園支隊へ變に浙江混成才八十九旅団に改編せらるゝに配属の各該支隊の編成内に入れられ欠数と成りたる才五中隊の編成に着手</p>
二、二八	<p>石綿成児艦</p>
三、二四	<p>浙江歩兵才六百七大隊に現在任務を移譲し平望鎮に移駐のため諸警出張</p>
三、二六	<p>主力は江蘇吳江景平望鎮に到着</p>
六、一六	<p>前任部隊たる才六十師団より任務継承一部を蕭山吳江に分遣し警備並に対米作戦準備に着手</p> <p>前師団直轄鐵道警備隊として二ヶ中隊を分遣浙江省嘉兴及江蘇省松江に夫々配置せしむ</p> <p>大隊出力は現任務を才七十師団轄軍隊に移譲し平望鎮出張</p> <p>浙江省嘉善に向ふ</p>

~60~

昭三〇、六、一七	蕩蕩到着 獨立歩兵少百二十三大隊より現任務継承 主力は該地に各一師を浙江省西塘鎮及楓涇鎮に分駐し各駐留地附近の警備並に陣地構築作業等専ら対米軍戦を準備す さきに鐵道警備隊として分遣中なりし各一ヶ中隊へ少一才三ヶ中隊は相前後して嘉兴松江より大隊に復帰す
自 八、五	乙号作戦参加
五 八、一〇	嶽突圍に前任務を移譲し蕩蕩出發 北方への転進開始
八、二一	安徽督軍張宗昌調任着
八、二四	主力は該地に各一師を曹无楽新壽橋に分駐 附近並に鐵道沿線警備
九、二八	終戦に伴い行地区の警備並に部隊裝備兵器物品の中國移譲完了
一〇、一〇	安徽省沿景湖潁区三里海茶中營に転移
二、三、一三	内地帰還のため國境出發
三、一五	上海到着
三、一	上海港出發

~61~

2917

年 月 日	昭三、三、五
経	佐世係上陸 復員 解散
	人員の状況
	再遣除隊（百寮解除）
	現地除隊（百寮解除）
	入院返着（昭二、三、三、三）現在）
	復員者（昭二、三、ノ以時）
	生死不明者（本土安痛強化要員二十九名）
	朝鮮兵逃亡（六名）
	部隊創立以来の死亡者
	戦死（台戦傷死五）
	病死死（含公病死四）
	不慮死
	変死
	内訳
	残留者
	処刑者
	一〇八名
	六六名
	五一名
	八二名
	三五名
	一一八名
	四八名
	六七名
	一名
	二名
	二名
	二名
	二名

独立歩兵才百二十二大隊略正

陸軍少佐 伊藤 敬次郎

年月日	概
昭二七、四、二〇	正代大隊長
一八、四、五	初代 陸軍中佐 大寺三郎
一九、二、二七	二代 陸軍大佐 坂倉勘雄
一七、二、二	三代 陸軍少佐 伊藤敬次郎
四、二〇	軍令陸才八号に依り編成下令
四、二二	備成宛経へ於浜田歩兵才二十一連隊補充隊へ
五、二〇	高根原安親那佐比虎村三庵 演習場に於て
五、二二	渡支準備訓練
五、二三	中支派遣のちの浜田歩兵才二十一連隊補充隊出港
五、二八	宇治港出帆
五、二八	場子江口通過
五、二八	呉港上陸

年月日	概	要
昭和十七年五月二十九日	浙江省杭州到着	
六月二日	杭州出発	
六月一日	浙江省義烏縣蘇溪鎮駐屯	
	同地附近の警備	
六月一日	諸暨西南方師団休戦参加	
七月七日	蘇溪鎮出発	
七月七日	浙江省義烏縣義亭到着	
七月九日	義亭出発	
七月十七日	浙江省新昌縣新昌駐屯	
	同地附近の警備	
九月一日	浙江省嵊縣嵊駐屯	
	嵊新地区の警備	
自五月二十八日	才二、三、四期浙贛休戦参加	
至九月十二日	移駐のため嵊縣疎出張	
一八三、九		
三、三六	浙江省旅京總領事駐屯	

~64~

昭二八、五、八 白 九、二六 至 一〇、三〇	臺北地区（海板沿箱）旭区警備 浙江省景茂州駐屯（第七十師団遺棄） 広総作戦参加 常徳殲滅作戦参加のため杭州出發 湖北省当陽縣潯嶺到着 同地同方面作戦警備 駐地掃蕩のため鶴崎嶺出發 湖北省漢口到着 漢口出發 浙江省景茂州駐屯 同地附近の警備 常徳殲滅（宜昌方面）作戦参加 移駐のため杭州出發 浙江省蘭谿縣駐屯 同地附近の警備 衢州方面作戦参加
二、五 二、二七 三、二一 一三、三一	
一九、一、二〇 一、二五	
自 六、七 至 七、二	

年 月 日	概
自前一九、八、一七 至 九、三〇	蕪水行面作戦参加
一〇、二	移駐のための蘭州出張
一〇、二	浙江省金華県金華駐屯
一〇、二	金蘭地区警備
二〇、三、三三	移駐のための金華出張
三、二五	浙江省嘉兴縣嘉兴駐屯
八、一八	同地附近及海龍沿線警備
八、一九	復員下令
八、二九	移駐のための嘉兴出張
九、二七	准海省曹村駐屯
九、二七	津浦線警備
二、三、二二	策中營集中のたの曹村出張
二、一五	安徽省靈璧縣固鎮到着
三、一六	内地精選のたの固鎮出張
	上海到着
	上海出張

~66~

昭三、三、三一

鹿児島海上陸

鹿児島海上陸尉に於ける部隊の状況

附随人員 八八七名

入院患者 四六名

死者 一五四名

生死不明者 一六名 (本土兵船要員被殺者)

戦傷者 三二六名 (留守名簿記載人員)

~67~

2923

才七十所出立歩兵才百二十三大隊（船才七一五所節隊）路征

陸軍大尉 時 玄 義 人

年 月 日	概 要
昭、七、四、一	節隊長官氏名 初代 陸軍大佐 山口 晴 二代 陸軍大尉 時玄義人 軍令陸甲才八号に依り山口景山口市歩兵才四十二連隊補充隊に於て獨立歩兵才百二十三大隊の編成下令
四、一六	動員才一日
四、二〇	動員を完結す
至 自 五、二〇 四、一	山口景山口市才四十二連隊補充隊に任り之訓練その他外征を準備す
五、二〇	歩兵才四十二連隊を其地
五、二三	衆船地玄島景宇岳へ向ひ征途に就く 宇呂港出帆

昭二七、五二八	揚子江口通過
五、二八	中華民国江蘇省上海に上陸
直ちに列車輸送に之を杭甬嘉州府船舎之江大塔に入る	
自 五、三〇	浙贛才二期作戰に参加す
至 六、一五	之がため
五、三〇	〇七〇〇近州市之江大塔出港
行軍により嵯瀨鎮尖山府を經之諸驛景長瀬市及諸驛に至る本期間主として並 華原金華攻路部隊の後方補給路線の整備泊野確保に任ず	
自 六、一六	浙贛才三期作戰に参加す
至 八、一四	本期間主として那田校方補給路線を脅威する敵兵並に土匪の討伐を突進す 行動区域夜州——諸驛間安站線北側地帯
自 八、一五	浙贛才四期作戰に参加す
至 九、一二	本期間前隊主力を諸驛に集結し才三期に引続き討伐並に泊野確保に任じ続 之
八、二五	取進のための行動を開始し諸驛——嵯瀨鎮——蕪山——紹興——余 姚を至之主力は鄞景寧波の一部は余姚に前進す

269~

年月日	概
至 五、二九 自 七、三	浙東地区（寧波、余姚、同登附近）の警備に戰鬥に参加す
至 七、三 自 七、三	莞南地区（寧波、余姚、同登、慈、東附近）に於て警備並に戰鬥に参加す
至 九、九 自 九、一〇	部隊の一部は広總作戰に参加す
至 一〇、三一 自 一〇、三一	参加兵力 陸軍中尉 岸田太郎以下二百四十八名
至 一九、三、一九 自 二、一	莞北莞南及新占拠地の警備並に戰鬥に参加
至 三、二〇 自 三、二〇	莞北、莞南、金華地区の警備並に戰鬥に参加す
至 五、二八 自 五、二八	之がため
至 三、五 自 三、五	戰進開始
至 五、二九 自 七、三	寧波——剡県——義烏——金華に至る行軍により武義縣武義に戰進す
至 七、三 自 七、三	衢州作戰に参加す
至 七、四 自 八、二〇	金華地区の警備並に衢州作戰準備

〜70〜

支 3

自昭一九、八、三一 至 九、二四 九、三五 二〇、二、二八 二〇、二、二二 二、二八 自 三、一 至 八、一四 三、二四 四、二 八、一九 三、三、四 三、四	<p>浙閩沿岸作戰（温州作戰）に参加す</p> <p>芑北、芑南、金華地区の警備並に戦斗</p> <p>軍令陸甲才十八号により臨時編成（編制改正）着手 編成完結</p> <p>杭州湾北岸地区の警備並に戦斗に從事す 之がため</p> <p>武義県武義鎮迄</p> <p>鐵路嘉興梁嘉興に転進す</p> <p>旅江歩兵才百二十三大隊長時公後人 嘉興駐悉</p> <p>鐵道輸送により安徽省鳳陽縣蚌埠に転進 而地に於て校員準備</p> <p>内地帰還のため蚌埠出發</p> <p>鐵道輸送により上海に集結 上海港出帆</p>
---	---

~71~

2927

年月日	概	要
昭三三三、八	<p>博多港に上陸す</p> <p>上陸人員</p> <p>部隊長 陸軍大尉 時広義人以下一〇八一名</p> <p>人員の状況</p> <p>以廻除隊（召集解除） 一〇八一名</p> <p>現地除隊（召集解除） 六三名</p> <p>入院退着（昭二一、四、三現在） 七五名</p> <p>生死不明者（昭二一、四、三現在） 一三名</p> <p>部隊戦 死（戦後死を含む） 八三名</p> <p>戦病死 八五名</p> <p>死者 不慮死 三名</p> <p>計 一七一名</p> <p>残活者 五名</p> <p>処刑者 五名</p>	

~72~

才七十師団独立歩兵才百二十四大隊略正

陸軍大尉 石田俊二

年月日	概略
<p>昭和二十二年 四月一日</p>	<p>正代大隊長 初代 陸軍大佐 瀨尾 浩 二代 陸軍中佐 田辺新之 三代 陸軍大尉 石田俊二 司令陸軍中佐八尋に應り編成下令 歩兵才百十三連隊補充隊に於て編成定額 編成の概略左の如し 本 部 才一甲隊 才二甲隊 才三甲隊 才四甲隊 才五甲隊</p>

~73~

2929

年月日	説
昭、一七、四、二一	<p>視察統中隊 歩兵中隊十三連隊新元隊に於て掃蕩完結</p>
五、二四	<p>赴港出張</p>
五、二八	<p>門司港出張</p>
五、二八	<p>揚子江口通過</p>
五、二八	<p>吳淞上陸</p>
五、二九	<p>杭州出張</p>
六、二	<p>浙南作戦参加のための新田に直及</p>
六、一二	<p>金華着</p>
八、七	<p>同地区警備</p>
八、八	<p>移駐のための金華出張</p>
八、三〇	<p>同地区警備</p>
九、二	<p>移駐のため古方出張 紹興着</p>

~74~

2930

一八、九、三五	同地区警備
一三、一五	広尾作戦参加のため紹興出発
一三、一五	作戦終了に村林城橋出発
一三、二〇	杭州着
一三、二〇	同地区警備
一九、三、四	原憲勢復甦のため杭州出発
一三、一三	同日紹興着
一三、一三	同地区警備
一三、一三	義烏着
一三、一三	同地区警備
一三、一三	衢州着
一三、一三	同地区警備
一三、一三	作戦終了
一三、一三	原憲勢に復甦義烏地区警備
一三、一三	浙南 沿岸作戦参加のため後編出発
一三、一三	廣尾大佐補獨立歩兵第百五〇大隊長
一三、一三	獨立歩兵第百二十四大隊増強隊を命ず(河野少佐)
一三、一三	補獨立歩兵第百二十四大隊長 田辺中佐

~75~

2931

年 月 日	事 件
昭二九、九、三〇	休戦終了後原態勢復明後急遽地区警備
二〇、三、二二	務駐のため義島出張
三、二四	水浦着
六、四	同地区警備並に対米作戦準備
六、二七	田辺中佐停職を命ず
八、一四	石田大尉相領立歩兵中隊二十四大隊長 終戦の詔勅を拜す
八、一六	所田北上に伴い務駐のため水浦出張
八、一八	復員下令
八、二八	安徽省宿縣到着
九、二八	同地区警備
九、二九	豫中警備隊のための宿縣出張
二一、一、二	安徽省蕪湖県固鎮着
二、一〇	同地区日本官兵兼中隊に入る
二、一三	半島出身兵安徽省鳳皇県蚌埠に於て虎胆隊召集解除す 内地將校上海乗船のため固鎮出張 上海着

~76~

2932

昭三二、三、一
三、六

江湾日本官兵隊中隊に入る
上海港に帆
博罗上陸

博罗上陸時に於ける部隊の状況

精選人員	十九十五名
入院罹者	五十五名
死 歿者	百八十四名
生死不明者（本土兵補要員を含む）	百十七名
取 戻 者	百四十名

~77~

2933

第七十師団工兵隊略正

陸軍大尉 杉田俊光

年月日	概略
昭二七、四、八	<p>中華民國浙江省寧波に於て軍令陸甲才八号に依り編成完結 隊長 陸軍大尉 杉田俊光 以下一七八名</p>
五、五	<p>浙贛作戦参加のため出動隊長以下一六〇名 作戦終了</p>
九、一二	<p>浙江省杭景拱宸橋に到着 爾後同地附近の警備及戦斗に参加</p>
九、三一	<p>広橋作戦参加のため出動 作戦終了</p>
一〇、三一	<p>拱宸橋に到着 同地附近の警備に従事</p>
一九、五五	<p>隊長陸軍大尉杉田俊光工兵才五連隊補充隊付被命</p>
五、五	<p>陸軍大尉日下康久才七十師団工兵隊長としての兼任</p>
五、三一	<p>衢州作戦参加のため出動</p>

~78~

2934

七、三	作戰終了
八、一五	拱宸橋に附与
九、三三	温州作戰参加のため出動 作戰終了
一〇、五	拱宸橋に到着
二〇、三、二五	陣地構築作業のため浙江省寧波地区に出動 編成改正のための拱宸橋に集結
二、二八	軍令陸甲才十八号に依り編成(改正)完結 敵長 陸軍大尉 日下康久以下九百八名
三、一〇	浙江省嘉興に移駐
八、一六	同地附近陣地構築作業に従事
八、二二	安徽省鳳陽県蚌埠に移駐のため嘉興出発 蚌埠到着
三、三、六	内地精還のため蚌埠出発 敵長以下七百六十一名
二、八	上海到着
三、二	上海港出発
三、五	博多港上陸 同日除隊 召集解除

才七十師団追撃砲隊略正

陸軍大尉 望月 淳一郎

年月日	要
昭和二〇、二、二八 至 昭和二〇、三、二八 至 昭和二〇、三、二八	軍令陸才十八号に依り中支浙江省嘉兴景嘉兴に於て才七十師団追撃砲隊の編成を完結す 編成の概要左の如し 部隊長以下五百十七名 本部（指揮班行李を含む） 才一中隊 才二中隊 才三中隊 浙江省嘉兴景嘉兴地区の警備 部隊（才二中隊欠）は江蘇省松江景松江に移駐 訓練並陣地構築に任ず 才三中隊は嘉兴に於て師団長直轄として訓練並陣地構築に任ず

1802

2936

15
外
中
支
3

昭三〇、五、七	才一中隊は松江県華荘鎮に移駐 爾後訓練並陣地構築に任ず
七、二七	部隊(才三中隊欠)は再び蕪興に移駐 爾後訓練並陣地構築に任ず 才三中隊は蕪興双橋に移駐 訓練並に陣地構築に任ず
八、一四	終戦の詔勅を拜す
八、一九	部隊は師団の移動に伴い北上のため蕪興を出発す
八、二三	才三中隊は師団長直轄として安徽省鳳陽縣蚌埠に位置し河地附近の警備
八、三一	部隊(才三中隊欠)は安徽省宿県に到着 爾後河地区の警備に任ず
九、二五	部隊(才三中隊欠)は安徽省靈璧縣固鎮に移動し 河地日本官兵集営中隊に入る
二一、二、六	同日才三中隊は蚌埠日本官兵集営中隊に入る
二、一〇	才三中隊は内地帰還上海集結のため蚌埠を出発す 部隊(才三中隊欠)は内地帰還上海集結のため固鎮を出発す 同日才三中隊は上海着 江湾日本官兵集営中隊に入る

281~

2937

年 月 日	概 要
昭三、二、一三	<p>部隊(才三甲隊欠)は上海に到着</p> <p>江湾日本官兵集結中隊に入り才三甲隊を合せ茲に部隊集結を終る</p> <p>部隊は上海港を出帆す</p> <p>三、二</p> <p>部隊は博多に上陸す</p> <p>三、六</p> <p>同日復員式終了</p> <p>博多上陸時に於ける部隊の状況左の如し</p> <p>帰還人員 四百七十名</p> <p>入院患者 三十九名</p> <p>死 殉 者 三十名</p> <p>生死不明者(本土兵備要員) 七名</p>

中 支 三

~82~

才七十師團通信隊（槍才二三四七部隊）略正

陸軍大尉 吉川義則

年 月 日	概 要
自 一七、四、三〇 至 二〇、一、一九 至 二一、 自 一七、四、三〇 至 一七、四、三〇	部隊長官氏名 陸軍少佐 西川重助 陸軍大尉 吉川義則 浙江省寧波に於て編成定結 部隊編成 本部 才一（有線）中隊 才二（無線）中隊 部隊長以下編成定員 三百三十名 部隊駐屯地 浙江省 寧波

年月日	概要
昭、二七、五	浙江省 金華
自一七、九	浙江省 杭州
自二〇、三	浙江省 嘉興
自二〇、八	安徽省 蚌埠
自二一、三	江蘇省 上海
自二一、三	博愛港上陸
一七、五	浙贛作戰参加
八、	まで金華駐留
九、	浙江省杭州に敗進
一八、一〇	広總作戰参加
一九、六	衢州作戰参加
八、	麗水作戰に参加
二〇、三	浙江省嘉興敗進駐留
八、	同地に於て終戦
八、	安徽省蚌埠に敗進
八、	同地に康中(管)

昭二二二

三二二二二

二二二五

内地帰還のため上海集結

上海港出発

博多港上陸

同日復員完結

綿成以来に於ける死致者十七名

死致者

内功續発令者

未発令

入隊遠着

博多港上陸 除隊召集解除人員

(職務整理者二名を含む)

十七名

十名

七名

十五名

三三八名

~85~

2941

才七十師團輜重隊略正

陸軍少佐 下川 涉

年 月 日		自 昭二七、四、二〇 至 一八四、一五 自 一八、四、一五 至 二、三、六	
概		要	
部隊長官氏名		部隊の構成	
陸軍中佐 松田正松		陸軍少佐 下川 涉	
区分	備 考 地	構成担任部隊	構成完了年月日
本 部	中華民国	根 拠 混 成	昭 和 十 七 年 四 月 十 日
才三中队	浙江省勸業學校	才三旅団	
才一中隊	広島県広島市	輜 重 隊	
才二中隊		才五連隊補充隊	
才一中隊、才二中隊は車輛中隊、才三中队は自動車中隊にして定員は隊長以下四七六名なり			

~86~

昭、二七、五、三〇	浙豫（才二期及至才四期）旅隊參加
至 九、一二	
自 一八、九、一〇	広徳旅隊參加
至 一〇、三〇	
自 一〇、三〇	浙桂旅隊（衢州作戰）參加
至 一九、六、二	
自 八、二一	浙閩沿岸旅隊（温州旅隊）參加
至 九、二四	部隊の駐地の移動
自 一七、六、二一	中華民國浙江省金華景金華
至 九、三〇	
自 一〇、一一	司 浙江省杭景杭州
至 三〇、三、三三	
自 三、三三	同 浙江省嘉兴景嘉兴
至 六、三	
自 六、三	同 浙蘇省吳江景平望鎮
至 八、一九	

~57~

2943

年 月 日	概 略
昭和、八、二九 至、二、二、八	<p>中華民国安徽省鳳陽縣將校 復員の状況</p> <p>内地帰還のための将校出発 上海到着</p> <p>内地に於て帰還準備 上海出帆</p> <p>博多海上陸 同日復員式を挙行す 部隊を解散す</p> <p>将校以下四六九名（残務整理着を除く）を召集解除（除隊す） 内訳 将校二十名 准士官百五十六名 兵二百九十三名</p> <p>部隊創設以来の死亡者 五十名 三月六日現在に於ける入院患者 八十三名 生死不明（逃亡） 一名</p>

20

外

中

文

3

~88~

2944

才七十師団野戦病院略正

軍医少佐 川 森 豊

至 八、一四	自 六、一六	至 六、一五	自 五、三〇	五、二九	五、二八	五、二三	至 五、二二	自 四、二〇	四、一六	一七、四、一六	取 一七、	年 月 日
浙贛才三期作戦参加	浙贛才二期作戦参加	杭州南運河着	上海港上陸	支那派遣のため宇留出帆	広島陸軍病院に於て待機	縮成着手	縮成完結	野戦病院編成下令	軍令陸甲才八号に依り才七十師団	本 隊 の 行 動	才 二 十 師 団 の 行 動	派 遣 所 其 の 他

~87~

3111

2945

年月日	本 隊 の 行 動	才二平部の行動	探検隊の概
昭二七、六二七	杭州兩軍衝突		
七、一三	浙江省金華省		
七、一六	金華に於て病院開設		
八、五	浙江省寧波に才二平部開設を命ぜ りる		
八、六	才二平部をして金華を出発	寧波に於て病院開 設のため金華出發	
八、七	浙江省興寧湖州に慰養所開 設を命ぜりる		
八、一〇	金華に於ける病院を閉鎖		湖州に慰養所開 設のため金華出發
百一七、八一五 至 九、一二	浙贛才二平部隊参加		
一七、八、一六		浙江省寧波に到着	
八、一七		寧波に於て病院開 設	
八、二五			湖州に到着 慰養所を開設

~90~

支 3

三、二五	一八、三、一七	一、一、一五	一、一、一	二、一、二	一七、一、一	九、一、三 至 一八、三、三二	九、八	九、一	昭二七、八、三一
			遊者療養所要員杭州に宏発せしむ	湖州遊者療養所要員後期浙江省制 県に遊者療養所附設せしむ		杭州地区通浙東地区警備及戦斗	蘇州に於て之府院附設	杭州に到着 可地遊厄	金華山遊
別泉遊者療養所要 員寧波に半部到着									
寧波に半部復歸す	別泉遊者療養所を用 續	遊者療養所を附設	別泉遊者療養所要員 流刑に宏発す	別泉遊者療養所要員 流刑に宏発す	湖州遊者療養所を用 續す				

~91~

2947

年 月 日	本隊の行動	才二半部の行動	敵義所其の他
昭和十八年四月一日 至 九、九	東北地区並に支那地区警備及戦闘 浙江省呉興景湖州に退着敵義所用敵を命ぜらる	同上	
七、二五	退着敵義所用敵をせしめ杭州出張		湖州退着敵義所用敵のため杭州出張
七、二六			湖州に到着 退着敵義所用敵
自 九、一〇 至 一〇、三一	広徳杯戦参加	同上	同上
九、二五	杭州に於ける病院閉鎖		
一〇、二〇			湖州退着敵義所用敵
一〇、二二	湖州退着敵義所用敵		湖州退着敵義所の浙江省安吉景梅溪鎮に於て本隊に復降
一一、二七	梅溪鎮に退着敵義所を用敵		梅溪鎮退着敵義所用敵

外
中
支
子

~92~

七、四	自六、二 至七、三		五、三〇		五、二六	五、二六	五、二六	自一九、三、三〇 至六一	自一九、三、一九	自一九、三、一九	二、二〇	昭二八、二、八
駐屯 杭州に駐屯	湘州作戰（衢州水戰）参加 杭州に駐屯				混成旅団野戦病院編成を命ぜらる 同時に混成旅団野戦病院編成を命ぜらる 同時に混成旅団野戦病院編成を命ぜらる		杭州に於ける病院開設	皖北地区皖南地区及金華地区警備 及戦斗	皖北地区皖南地区新占地区警備 及戦斗	皖北地区皖南地区新占地区警備 及戦斗	杭州に於ける病院開設	杭州に於ける病院開設
								同上	同上			
			混成旅団野戦病院 杭州に駐屯す					同上	同上			

～99～

2949

自 九、二九 至 二〇、二八	自 八、二一 至 九、二四	九、二五	一〇、二	一一、七	一二、二五	自 九、二九 至 二〇、二八	自 九、二九 至 二〇、二八	自 九、二九 至 二〇、二八	自 九、二九 至 二〇、二八
混成旅団野戦病院に配属中の人員は才百三十旅団野戦病院に転属	浙閩沿岸作戦（温州作戦）参加	杭州に帰還	駐屯	杭州に於て病院開設	梅溪鎮慰養所要員復帰	銭南銭北浙贛地区の準備及戦斗並に對米作戦準備	同上	同上	同上
混成旅団野戦病院に配属中の人員は湖南省確陵に於て才百三十旅団野戦病院に転属す					梅溪鎮 慰養所閉鎖				縦養所長の他

~94~

五、二〇	五、一九	五、一三	四、一八	自 三、一七 至 三、二〇	三、一七	三、一七	三、一七	一三、二二	照、二〇三、二六
		才二半部要員嘉興出發	才二半部要員本隊に復精 江蘇省松江に才二半部開設を命ぜ ゆる	浙江省嘉興県嘉興附近の整備	同地駐屯	嘉興に到着	移駐のため杭州出発		杭州に於ける病院を閉鎖
		松江に於て病院閉 設のため嘉興出発		本隊に復精				寧波才二半部は石 一三一師団野戦病 院に業務移官	
		松江に到着							
		松江に於て病院閉 設							

~95~

2951

年月日	本隊の行動	才二半部の行動	療養所其の他
昭二〇、八一		才二半部の行動 松江才二半部は病 院業を破立混成才 六十二旅団野戦病 院に移す	
八、二	松江才二半部要員復帰	松江才二半部要員 本隊に復帰	
八、一八	復員下令		
八、三一	移駐のたの宿営出発		
八、二七	安徽省鳳泉縣陣中に到着 同地駐屯		
八、二七	安徽省宿県に才二半部解散を命ぜ らるゝ共に要員出発せしむ	才二半部要員出発 宿県に到着 宿県に於て病院開 設 移駐のたの宿営出 発 安徽省固鎮到着 同地に於て病院開設	

2952

2952

	昭三、三、六	内地帰還のため蚌埠出発		
	二、八	上海到着 内地駐屯		
	二、八		内地帰還のため安 徽省盱眙景園鎮病 院閉鎖	
	二、一〇		固鎮出発	
	二、一三	才二半部要員復帰	上海到着 本隊復帰	
	三、一五	内地帰還のため鉄船（全部）		
	三、三、一六	上海港出発		
	三、一九	左世保上陸		
	三、一九	精進着除隊百葉解散	二五三名	

297

2953

才七十師団新編隊へ附才二三回九部隊（略正）

陸軍獣医大尉 佐井 哲

年月日	概要
昭二七、四、二〇	<p>部隊長官氏名 陸軍獣医大尉 増山仁太郎 陸軍獣医少佐 三和 寛 陸軍獣医大尉 佐井 哲</p> <p>浙江省寧波に於て編成完結 旅長以下四回名を以て編成し特に編成上の区分をなし 部隊は</p>
自 四、二〇 至 五、一二	<p>浙江省寧波に駐留し傷病患の収養に任じ</p>
自 五、一二 至 九、七	<p>浙贛作戦に参加し傷病患の収養に任じその店主として金華に駐留</p>
自 九、八 至 一〇、三、一七	<p>杭州に駐留しその間広徳作戦湘桂作戦湘閩沿岸作戦に参加 傷病患の収養に任ず</p>

<p>自 八、二三 至 三、二、八</p>	<p>六、一九</p>	<p>以上の期間死歿若生死不明者等なし 湘江省嘉兴に駐留し揚子江の収束に任ず 以上の間 本土兵補要員として主計曹長一名、隊医務伍長一名、計三名戦傷出張 発令せるも被隊員部隊より通報なきため生死不明者となしあり 安徽省蚌埠に駐留し 内地掃蕩のための 蚌埠出張 浙江省上海に集結す 内地掃蕩のため上浙出張 架橋（濟州） 揚子江口通過 博習港入港 同日博習港上陸 部隊掃蕩人員 将校五名、准士官一名、下士官十二名、兵二十七名、計四十五名</p>
<p>自 八、二三 至 三、二、八</p>	<p>二、一八</p>	
<p>二、一一</p>		
<p>三、二</p>		
<p>三、三</p>		
<p>三、五</p>		

